

KFR セミナー

波浪計測技術の最前線

現在、船舶の実海域性能のより詳細な把握を目的とした研究が精力的に行われていますが、その中心的な課題の一つが、船舶が遭遇した海象条件の正確な把握やモニタリングです。従来の商船には、波浪を計測するための専用機材を搭載していることは少なく、船舶性能と波浪の相関関係を詳細に調査することは容易ではありませんでした。

しかし、近年では船舶用レーダーを用いて、シークラッタから波浪を計測する方法が実用化されて、遭遇海象をより正確に把握することが可能となってきました。一方、船体運動から波浪スペクトルを逆推定する船舶波浪計化法の実用も視野に入っており、遭遇海象の把握が容易になりつつあります。さらに、これらの新しい波浪計測方法の精度検証や、海上試運転時波浪計測での扱いやすさを重視した小型の波浪計測ブイの開発も進められています。

今回の KFR 例会では、波浪計測技術の最新の話題について、この分野における研究に取り組みされてきた3名の講師をお招きして、計測技術・原理について解説いただくとともに、応用例についてご講演いただきます。ご関心をお持ちの多数の方々のご参加をお待ちしております。

KFR 会長 田中 寿夫

— 記 —

第350回 KFR セミナー

- 日時：2021年7月12日（月）1400～1700
- 場所：Webexでの実施です。（詳細URLは後程、メールでお伝えします。）
- 参加費：無料、要事前登録

・ 小型ブイを利用した波浪計測の実例（平川 嘉昭 氏：横浜国立大学）

波浪計測において現在最もロバストな計測方法であると考えられる波浪計測ブイについて、ブイを用いた波浪計測を約20年間実施してきた経験談を交えつつ紹介する。

・ 船舶用レーダーを用いた波浪計測（森垣 亮祐 氏：古野電気）

船用レーダーで観測した海面からの反射波を解析し、波高などの波浪情報をリアルタイムに算出する方法とその解析性能を、実測データを交えて解説する。

・ 船舶波浪計化法による遭遇海象の推定について（寺田 大介 氏：防衛大学校）

船体運動と方向波スペクトルとの関係は井関のBayesモデルによって説明できる。この講演ではBayesモデルの効率的なパラメータ推定法について幾つか紹介する。

参加申し込みは、7月5日（月）までに下記URLかQRコードから願います。

<https://forms.gle/r9eP6CKqcYDHhMXs7>

